

東北大学ラップアップミーティング (2025/1/16) 実施報告

2025年4月

JEITA講座運営WG

JEITA 一般社団法人
電子情報技術産業協会

「ディスカッション（グループ）」での話題

チームA：

- ✓ 幅広いメンバ。ワークライフバランスの話。働き方関わった
- ✓ 自分で決めているという話に驚いた
- ✓ キャリアアップ（幹部社員昇格）とは別に、専門性での昇格もある

チームB：

- ✓ 就活、博士で、大変。
- ✓ 企業就職の後、専門性の高いところに行くと、他に行けない
- ✓ 情報発信が難しい

チームC：

- ✓ 全員が研究者を目指す院生
- ✓ 技術分野で、最新技術のキャッチアップは、どのタイミングで行っているのか？企業ではメリハリつけている
- ✓ キャリアパスとして、転職したくない場合、どういう企業を選べばよいのか。特定の技術・研究をしたいなら、その分野を多く持つ会社
他のところでも、自分の研究を活かせる領域がある

チームD：

- ✓ 博士に進む学生 3 名
- ✓ 専門性以外にも、いろいろなスキルがある。技術の専門性のほかに、キャッチアップするスキルは「汎用性」のあるもの

チームE：

- ✓ 就・働く前の話、働いてからの話など
- ✓ インターンに行くべきかどうか、については、やりたい職種を選んでから
- ✓ キャリアパス、転職の話。研究職として研究を続ける道もあるし、マネジメント（部長）とかになる道もある

チームF：

- ✓ インターンが大事。未来の話
- ✓ アカデミアが企業にどうやって入るのか？
- ✓ 大企業が向いているかどうか。そういう人は、共存しているのか
- ✓ 将来のキャリアをどうやって決めるとよいか

フリーディスカッション（全体を通して）：

- ✓ グループディスカッションの機会があり、横のつながりが出来てよかった
- ✓ 先人の知恵が、世を渡る助けとなるとよい

「全体対話（全員）」における質問と回答（企業講師による）

質問	回答
博士号をとった後、どういう方法があるか？	・この研究したい、という人は大学がいいのではないかな。専門を広げたり、応用を見つけないなら、待遇面もみて、企業もいいと思う ・企業に来てから博士の道もある
キャリアパスとして、研究職以外も聞きたい。	・色々な仕事を経験した。半導体実装の研究していたが、省エネ部署でお客様の現場でアドバイスする仕事、製品開発、英語が苦手だったが標準化の仕事に変わった。その場、その場で自分の遣り甲斐が見つかるとうい ・自分で描くことも良いが、他の人から「あなたは〇〇が向いているんじゃないか」といわれることもある。変わることは悪くない。仕事を楽しみながらやると良い
国の博士人材を増やそうとしている（数値目標あり）が、企業は博士が欲しいのか？	・企業も博士を求めている。研究所では、博士 3 割、新人は 4 割採用している ・業種に関わる博士に対するニーズがある。専門性を企業で活かすとよい
学生時代にやっておくことは？ 社会人になってみると、学生の時は時間があつたと思う、というが、ということすればいいのか？	・何でもやっていい ・英語は若いほうがいい ・友達とのディベート。こういう考え方がある、ということに気づく
動きやすさを求めるなら、専門性か、ジェネラリストか？	・専門の研究だけだったとしても、研究の方法を学んだ経験がある。どの専門であっても、新しいテーマを与えられても結果を出せる。ジェネラルな研究をできる立場は少ない。いずれにしても、将来を狭めることにはならない
博士をとっておいてよかった、ということは何？	・研究を進めていく人たちは、考え抜く、やってみたことを検証していく、試す。社会人になって、どの現場でも大事。仮説を立てる。みんなの合意を得ながら仮説を立てるのは役にたつ
他にも。社会に出てから役立つことは？	・数年のスパンで切り替わる。次の時、どうなるか、常に問われる。だから、今全力をつくす、実績を出す。この後、周りからも、期待される。抜擢される。次に行ったところで、ガンバル、それに尽きる

- 博士課程後期の学生が多く、企業に就職してからも研究職の希望が多かった。特に「自分の専門性を活かし活躍できるか、活躍し続けられるか」と不安を伝える学生が多かった
- 時代の変化とともに、世の中の課題、技術、ビジネスも変化することから、同じ研究テーマを継続できるとは限らない。チームDを担当された企業講師は、研究テーマに依存せず、研究のプロセス（考え方）の「経験が活きる」ということを伝えていたのが良かったと思う
- 世の中の課題を解決するために、何を自分が研究しているのかを意識していると、研究価値が陳腐化しない。国プロなど、予算をとりながら、大学で研究するときと同じ。研究を継続する上で、説明責任を果たすことも大切であることを伝えた
- JEITA講座WGとしては、「社会で役立つ研究」をする学生が増えるようにアピールしたり、また、企業で活躍する博士の様子なども学生に紹介すると良い。博士に進学した学生も、安心して企業での就職を検討できるかもしれない
- 遠方（仙台）での実施なので、移動負荷も高い。今後の継続では、改善検討が必要となるのではないかな